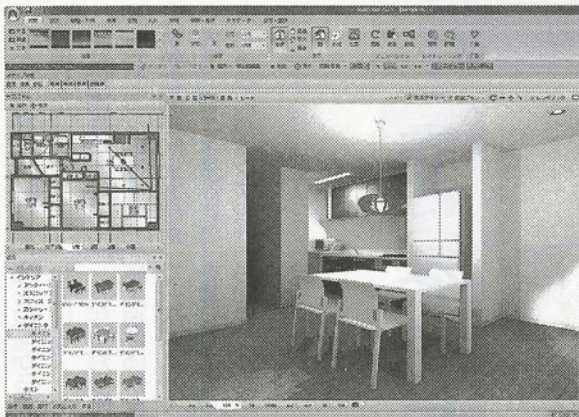
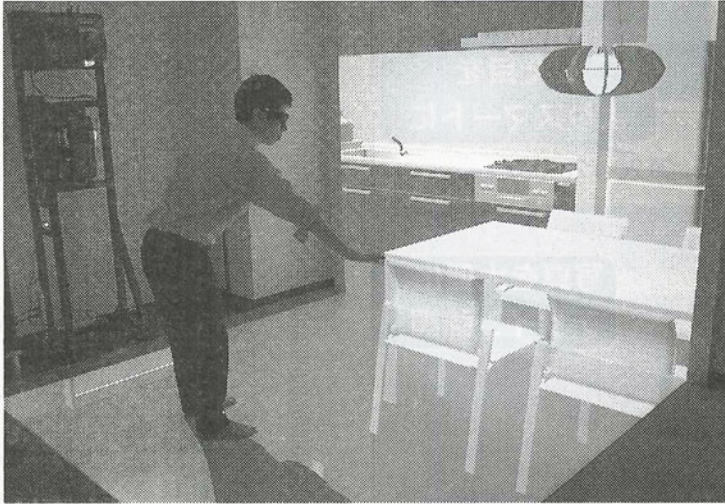


間取りプランをバーチャル空間で体感

コンピュータシステム研究所の「ALTA for VR」

住宅設備・建材・資材



「ALTA for VR」による3Dバーチャル空間(上)とパソコン上のデータ画面

提案を等身大で把握

有力ビルダー向けに実績増

コンピュータシステム研究所(東京都新宿区、長尾良幸代表)のバーチャル住宅展示場作成システム「ALTA for VR」が地域の有力ビルダー向けに販売数を増やしている。昨年2月の発売以降「各都道府県に1〜2システム入ったイメージ」(コンピュータシステム研究所)だ。システムの特徴は主に2つ。一つは、実寸大の3D空間プランの中に入り等身大の視点で提案を把握できる点。もう一つは、異なるバリエーションのプランでもその場のデータ入力で即座に示せるため、同時に複数のプラン提案を行っても差を理解してもらいやすい点だ。「差別化として間取り提案を重視している事業者にとってのツール」(同)という。3D画像をタブレット端末やパソコン画面といった二次元で提示することが主流の現在の間取りプレゼン分野で、仮想現実空間における提案プランの体感という新ジャンルを開いた「ALTA for VR」を取材した。

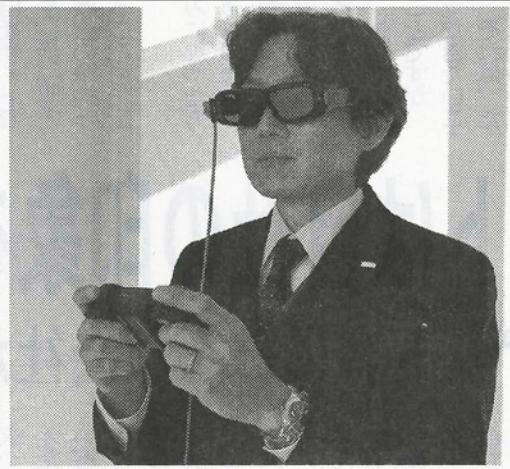
コンピュータシステムは、同社のベストセラー研究所のバーチャル住宅商品である住宅プレゼン展示場作成システム「ALTA for VR」をビルダー向けに提供している。

(以下、「ALTA」)と3Dプロジェクターを組み合わせ、データを連携させたものだ。「ALTA」同様、操作の際に高度な専門知識を必要としないため、現場の営業マンが使用できる。

使用の手順は、①4〜6畳程度の室内にプロジェクターでバーチャル空間を投影する。②スタジオを作成。③電子ペンで書き込んだ間取り図に基づく3D画像を実際の現実空間に投影。④エンドユーザーはその空間の中に立ち3Dメガネを通して提案プランを認識し、価格を4面に映像を投影するフルモデルタイプが1690万円(税別)で、リースだと期間五年で月額約40万円(同)だ。

バーチャル空間でプラン提案を行うシステムは他社でも出しているが、「そのほとんどは3Dメガネの中に空間を作るもの。室内に提案プランの3Dバーチャル空間を作り出し、その中で実際に人が動いて立体感や遠近感を把握できるリアルタイムで設定状況の変更が可能なシステムは、業界初」(コンピュータシステム研究所)という。

リアルタイムで変更のバーチャル空間だと、プレゼン側はメガネをかけて間取りの説明を受け



コントローラーによる立ち位置の移動も可能

ている人が空間のどこを見ているかがわからず、説明効率が悪い。一方、実際の映像内に説明を受ける人が立って見れば体や顔の向きでどこを見ているかわかり、きめ細かな説明ができる(同)。

同社によると、これまでに「ALTA for VR」を導入した住宅事業者は、①地元での新築供給棟数がトップ10に入る有力ビルダー②常設の住宅展示場を持ちながら、プレゼン力のさらなる向上を目的にシステムを導入し、実際のリアルタイムで説明を受けるという。

「展示場は『夢を売り購買意欲を高める場』と位置付け、実際のリアルタイムの間取り提案を行う場面がシステムを活用することが多いようだ。バーチャル空間内にいるエンドユーザーに『今、目の前に室内の壁が見えますよ。これをどうした間取りとするか』というように、今からお見せします」と、その場で壁を取ることもできるなど、商談の場でも出される細かなニーズにもその場ですぐ対応できる。パースや図面などの二次元的打合せではなかった、『実際は、説明を聞いて頭の中で思い描いたイメージと違っ

た』といったクレームが減った」との評価も頂いている(同)。

「照明」機能を追加

同社は今後、「ALTA for VR」の販売強化として、5月に東京ビッグサイトで実施される「住宅ビジネスフェア2016」にシステムを出展する。また、兵庫県神戸市内にある関西営業所の移転として6月に大阪市内で開設する自社ビルの中に、システムを体感できる常設ショールームを設置する。機能強化では今秋をメドに、照明シミュレーション機能を加えたバージョンアップ版を発売する予定だ。

